

講座の全経費を負担

木村情報技術 有明高専で九州初

IT関連企業の木村情報技術株式(本社・佐賀市木村隆夫社長)は、来年度から有明工業高等技術専門学校(高橋薫校長)に寄



握手する高橋校長と木村社長(右)

附(付)講座を開設することになった。九州内の高専で民間企業が講座を寄付するのは初めて。全国でも五番目という。

ITデータを処理する、ビッグデータの活用は国際競争の観点からも注目されています。来年度から専攻科から授業を始めていき、将来は一年生から五年生

の本科生にも広げて生きたいと思っています。ほかの高専に先立ってAIとIoT技術に取り組むことで、地域から優秀な人材が有明高専を志してもらい、地域で活動できる技術者を輩(はい)出していきます」と話した。

木村社長は「IBMのワトソン日本語版を活用し医療機関に薬の情報を、AIを使って伝える事業をしています。世界を相手にするには人材がまだまだ不足しています。この講座で学生さんたちの若いアイデアと発想でビジネ

寄付した講座は「人工知能・ビジネス講座(木村情報技術)」。近年「AI(人工知能)や「IoT(モノのインターネット化)の進歩が目覚しく、AIを学び、AIを活用し実際のビジネスに活かせるような人工知能技術者養成を目指す。講座は二年間で「特命助教」などの人件費年一千万円(二年間で二千万円)を木村情報技術が負担する。

高橋校長は「AIやIoT技術、集まった膨大なデ

スの現場で活用できるものや、レベルが高い即戦力の人材が育つてもらえれば」と語った。